

「静岡県茶業振興計画」(概要)

目指す姿

生産者の経営安定と持続可能な茶業の両立
～多様な人々との協働で目指す静岡茶業の再生～

主な目標値	R2	R7
茶産出額	203億円	287億円
茶輸出額	34.1億円	58億円
有機栽培面積	198ha	400ha

基本方向(Ⅰ)産業振興の視点

取組の方向性 多様な人々との連携による需要の創出

1 静岡茶の新たな価値と需要の創出

(1)多様性に対応した消費を喚起する新商品開発やサービスの展開と販路開拓の推進

- ・新商品の開発と販路開拓の取組の推進
- ・観光や飲食業等と連携した多様なサービスの拡大

(2)デジタル技術やECサイトを活用した茶の販路拡大

- ・動画やSNSを活用した魅力発信、ECサイトの活用

(3)機能性をPRした茶の消費拡大

- ・茶の機能性の情報発信、消費者の信頼確保

(4)茶業研究センターの機能強化と技術の開発・実証

- ・民間連携による茶の需要創出の促進、品種や加工技術等の開発

2 茶産地の構造改革の推進

(1)生産者の経営の強化

- ・流通販売業者との契約生産の推進
- ・中山間地域における高級茶等の生産の持続
- ・スマート農業技術の社会実装、複合作物の導入による経営の安定化

(2)茶園の整備・集積

- ・農地中間管理事業等を活用した茶園集積
- ・茶産地構造改革基盤整備プロジェクトの推進

(3)人材の育成及び確保

- ・中心的経営体や担い手の育成、農地所有適格法人の設立推進

3 海外販路の拡大

(1)海外への茶の供給体制の強化

- ・輸出向け静岡茶の生産体制の強化
- ・仕上げ加工段階におけるHACCPへの対応
- ・有機JAS認証や各国際認証(ハラール等)への対応

(2)海外への茶の販路拡大

- ・ECサイトやWebによる情報発信の強化
- ・海外サポートデスクによる輸出サポート体制強化
- ・静岡茶が海外から選ばれるための仕組の構築

基本方向(Ⅱ)環境・産業振興の視点

取組の方向性 持続的な生産体系の推進

4 SDGsや脱炭素社会に向けた取組の推進

(1)茶の有機栽培に向けた取組の推進

- ・収量・品質の安定化、除草作業等の労力軽減、有機質肥料等のコスト削減等

(2)低炭素化等の環境負荷軽減対策の取組の推進

- ・新エネルギーの導入や耐病虫性品種の導入、化学肥料の使用低減等

(3)茶園の保全効果と茶草場農法の維持・継承

- ・茶園土壌による炭素貯留効果等の情報発信、世界農業遺産「静岡の茶草場農法」の維持・継承

(4)気象災害や労働安全等への対応の強化

- ・収入保険や茶セーフティネット等の加入促進、生産者の労働安全の確保等

基本方向(Ⅲ)文化・産業振興の視点

取組の方向性 次世代への茶業及び茶文化の継承

5 茶の都づくりの推進

(1)国内外に向けた情報発信

- ・ふじのくに茶の都ミュージアムによる茶の魅力発信
- ・茶の産業振興につながる世界お茶まつりの開催
- ・茶関連施設等による情報発信

(2)静岡茶の愛飲促進

- ・地域や家庭と連携した愛飲の機会の拡大と継続
- ・小中学生を対象とした茶の競技大会等の開催